

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
国際医療看護福祉大学校	平成13年12月11日	佐藤 本実	〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-19 (電話) 024-956-0160																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人 国際総合学園	平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8063 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
教育・ 社会福祉	教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	平成26年文部科学省 告示第6号	無																	
学科の目的	本校は、学校教育法に基づき、高等学校における教育の基礎の上に言語聴覚士、臨床工学士、救急救命士、看護師、介護福祉士のための教育を行い、さらに高齢者福祉・障がい者福祉事業、医療業界に従事し国内および国際稼進に貢献しうる人材を育成することを目的とする。																				
認定年月日	平成28年2月19日																				
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験																
2	2034			0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
80人	19	1人	4人	11人	15人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期考査と平常の学習状況を総合し、4段階評価とする。表示はA、B、C、Dとし、Dは不合格。 卒業条件は、学則の全科目の単位の履修。 進級条件は、当該年度の全科目の単位の履修。																	
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月25日～3月31日	卒業・進級 条件																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任・スクールカウンセラーによる個別面談および学科長・担任による学生・保護者面談	課外活動		■課外活動の種類 特になし ■サークル活動: 無																	
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 社会福祉人いずみ福祉会、株式会社あいの里、社会福祉法人千桜会、医療法人佐原病院、社会福祉法人安積福祉会、社会福祉法人共生福祉 ■就職指導内容 マッチング、履歴書の添削、模擬面接による指導、卒業した未 内定者への就職支援 等 ■卒業者数 9 人 ■就職希望者数 8 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.9 % ■その他 ・就職意思なし: 1名 (令和 2 年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士 国家試験</td> <td>②</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士 国家試験	②	9人	8人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
介護福祉士 国家試験	②	9人	8人																		
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 令和2年4月1日時点において、在学者17名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者16名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・コロナウイルス感染拡大の影響で来日できず ■中退防止・中退者支援のための取組 学生との個別面談、保護者会、保護者面談、三者面談、スクールカウンセラーとの面談 等		■中退率 5.9 %																		
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 「無利子奨学制度」年額30万円を無利子で貸与し、卒業後の返済により、就学の便宜を図っている。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.i-medical.jp/																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

介護福祉士の育成において、社会福祉士・介護福祉士法を鑑みつつ、福祉の現場が専門学校に望む教育内容を確認する。更に、地域の福祉に貢献できる介護福祉士を育成するため、福祉施設側、学生側双方にとって望ましい教育内容を提供すべく、福祉機関との連携を図りながら教育課程の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会の目的として「教育課程編成の改善」を主とするため、本委員会を教務部の指導・助言機関として位置づけ、委員会での協議事項を学校管理者で検討するとともに、本校及びグループ校の意見等を取り入れながら教育課程へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 恵二	特別養護老人ホームほほえみ 施設長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	③
小山田 米子	福島県介護福祉士会 会長	令和2年4月1日～令和3年3月31日	①
佐藤 美奈子	福島県社会福祉協議会 大村町修護一平会事務所 主任	令和2年4月1日～令和3年3月31日	①
佐藤 本実	国際医療看護福祉大学校 学校長		
岡崎 史紹	国際医療看護福祉大学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年8月7日 11:00～12:30

第2回 令和3年3月19日 13:30～15:00

令和3年度第1回 令和3年7月28日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

一昨年度、介護福祉学科では、ベトナムからの留学生2名を含む在籍生全員が国家試験に合格できた。以前、委員の方々からご意見をいただき改善に取り組んでいた、学生の認知症に対する知識の向上や、留学生の日本語力向上を目的としたフォロー体制の確立、これらが功を奏したというご意見をいただき、充実した指導体制をしっかりと維持するようアドバイスをいただいた。また、コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、施設実習など、学生に体験させておきたいカリキュラムを当初の計画通り実施できたことにも高い評価をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習を通して介護福祉士に求められる専門的な知識や技術のみならず、人間性豊かな専門職として施設の利用者やその家族の方々の心理的側面を理解するように努めることを目的とする。更に介護の現場で起こる様々な問題に柔軟に対処するための能力を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習の目標や課題を明確にし、実習指導者は、到達度・評価を項目別に点数化する。評価表は文書にて作成し、各学生に返却。返却時に内容を伝達し、本人の改善点を明示して今後のスキルアップを図る。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ－①	利用者とのかかわりを通してコミュニケーションの基礎を学び、介護を必要とする方を知る。具体的には、介護を必要とする方について、介護を必要とする方の様々な生活環境、介護福祉士や他職種の役割などについて学ぶ。	株式会社ライフエージェント(ライフサポートセンター家楽郡山、ライフサポートセンター家楽くぼた、k-fit八山田)
介護実習Ⅰ－②	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活について考える。具体的には、生活環境、個々の生活や個性について、その人らしさを理解するためのアセスメントの視点について、生活支援に必要な介護技術や多職種連携などについて学ぶ。	特別養護老人ホームカーサミル、特別養護老人ホームスプリングガーデンあさか、地域密着型特別養護老人ホームうねめの里はるひめ、介護老人保健施設南東北春日リハビリテーションセンター 他
介護実習Ⅰ－③	住みでの生活支援を理解し、地域で生活を支える介護福祉士の役割を考える。具体的には、訪問介護にて介護を必要とする方の生活環境や地域とのつながり、利用者や家族とのかかわりを踏まえた生活支援、居宅サービスにおける介護職の役割や多職種連携などについて理解するとともに、介護職としてのマナーを身につける。	郡山市社会福祉協議会ホームヘルプサービスセンター、玉川村社会福祉協議会訪問介護事業所、JA福島さくら郡山福祉センター 他
介護実習Ⅰ－④	地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。具体的には、地域密着型サービス、地域密着型サービスを利用する利用者の生活と地域との関わり、地域拠点としての施設・事業所の役割などについて理解する。	特別養護老人ホームカーサミル、介護老人保健施設ゴールドメディア、地域密着型特別養護老人ホームうねめの里はるひめ、特別養護老人ホーム寿恵園、特別養護老人ホームさくら荘 他
介護実習Ⅱ	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活の実現に向けた生活支援について理解する。また、利用者本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。	特別養護老人ホームカーサミル、特別養護老人ホームハーモニミドリヶ丘、介護老人保健施設ゴールドメディア、特別養護老人ホームいわせ長寿苑、特別養護老人ホームたまかわ荘 他

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門教育における教員には、授業を通して福祉現場のたゆまぬ進歩の状況を学生に伝えられる知識と、学生の内面を理解した授業スキルの向上が求められる。そのため、就業規則第57条等による研修体制を充実させることで日々の研鑽を図る方針を推進している。

就業規則第57条に、「学園は職員に対して一般的、又は職務上必要な次の教育を行う」として、専門的な知識・技能に関する教育、一般的な知識及び情操に関する教育、諸法規、諸規程に関する教育等を挙げている。また、同条の2には、「職員は、学園の行う教育に積極的に出席しなければならない」とあり、同条の3には、「職員は、学園から園外研修講座に受講を命ぜられたときは、積極的に受講し、かつ復命しなければならない」ともある。

なお、本校ではこの規定に基づき、「職員の教育・研修に関する細則」を定めている。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・令和3年1月 技能実習指導者講習(日本介護福祉士会主催)  
対象:千葉・大久保、技能実習生指導者対象のフォローアップ研修, 期間1日
- ・令和2年10月 介護実習指導者講習(福島県介護福祉士会主催)  
対象:千葉・大久保、介護実習指導者対象のフォローアップ研修, 期間1日

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・令和2年9月 新任教員フォローアップ研修(人財開発部主催)  
対象:馬場, 新入職員向け学生指導に関する研修, 期間1日
- ・令和2年10月 G-3昇格基準研修(人財開発部主催)  
対象:馬場, 昇格に係る研修, 期間1日
- ・令和2年12月 NSGネクスト(人財開発部主催)  
対象:馬場, 入社3年以内の職員向け研修, 期間1日

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- ・令和3年5月 介護予防主任運動指導員フォローアップ研修(東京都健康長寿医療センター主催)  
対象:千葉, 介護予防主任運動指導員のフォローアップ研修, 期間1日
- ・令和3年6月 Life upセミナー「認知症とともに生きる」(株式会社バイタルネット主催)  
対象:三本木, 認知症に関する研修, 期間1日
- ・令和3年9月 介護教員研修(日本介護福祉士養成施設協会主催)  
対象:三本木, 養成施設教員育成を目的とした研修, 期間30日

② 指導力の修得・向上のための研修等

- ・令和3年4月 新入職員研修(人財開発部主催)  
対象:三本木, 新入職員向け研修, 期間1日
- ・令和3年7月 新任教員フォローアップ研修(人財開発部主催)  
対象:三本木, 新入職員向け学生指導に関する研修, 期間1日
- ・令和3年8月 スクールカウンセラーから学ぶ、最近の若者の傾向と教員としての対応法(事業管理部主催)  
対象:大久保・三本木, 最近の若者の傾向と教員の対処法について, 期間1日
- ・令和3年8月 PCスキルアップ～基礎編～(事業管理部主催)  
対象:三本木, Officeソフトの基本操作に関する研修, 期間1日
- ・令和3年11月 G-3昇格基準研修(人材開発部主催)  
対象:三本木, 昇格に係る研修, 期間1日

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校・評価委員会・本部による点検後の自己点検評価に基づき、不備な点の改善、方向性、及び次年度以降の解決・取組課題を具体化し、学校の質保証・向上に努めている。委員からはコロナ禍により遠隔授業を行う際の自宅のWi-Fi環境問題について意見があり、保護者への理解を図ると共に対応できていない学生への代替えで受講できる方策を用いて、教育レベルを維持させながら国家試験に向けた学習を提供できた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

2021年7月30日現在

名前	所属	任期	種別
片岡 則之	日本大学 機械工学科	2020年4月1日～2023年3月31日	教育関係
清水 一浩	東北健康福祉株式会社	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
窪 睦子	総合南東北病院	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
遠藤 次男	仙南地域広域行政事務組合消防本部	2020年4月1日～2023年3月31日	企業等委員
佐藤 武諭毅	(株)フォーストエマージェンシー	2020年4月1日～2023年3月32日	校友会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

・自校の元校長、卒業生、病院事務長、実習先看護部長、高等学校元校長

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内、DM等の印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進) )  
URL: <http://www.i-medical.jp/> ※2021年8月に上記内容にて公表した。

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要・教育理念・教育目標
(2) 各学科等の教育	学科別カリキュラム・特色・資格・就職実績
(3) 教職員	専任教員・兼任教員紹介・数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事・対外活動・イベント・施設・設備
(6) 学生の生活支援	各種奨学資金・学生寮・住居紹介
(7) 学生納付金・修学支援	各種奨学資金・学費サポート・特待生制度
(8) 学校の財務	収支決算書
(9) 学校評価	自己点検評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生状況・国際提携校・国際交流活動
(11) その他	生涯学習・編入学等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.i-medical.jp/> ※ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学校案内、DM他印刷物にQRコードを付けて閲覧を促進している)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	老い、病、障害などにより生活の支障を生じている人々への生活支援を行う際の尊厳の保持と自立の基本を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			対人関係学	人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を理解し、よりよい援助サービスが提供できる能力を習得する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			チームマネジメント	介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践を学び、チームマネジメントの基礎的な知識を身につける。	2年後期	30	2	○			○			○	
○			福祉社会を支える制度	介護実践に必要な知識という観点から、社会保障制度、施策についての基礎的な知識を養う。	1年前期	30	2	○			○				○
○			生活を支える制度	介護保険制度や障害者総合支援制度を中心に、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を養う。	2年後期	30	2	○			○				○
○			基礎心理学	介護サービスを提供する際の基本となる「人間の基礎心理」、「こころのしくみ」について学ぶ。	1年後期	30	2	○			○				○
○			情報処理Ⅰ	Wordの基本的な操作を習得し、施設における文書作成の際に役立つ力を習得する。	1年前期	30	1		○		○				○
○			情報処理Ⅱ	介護現場で必要なExcel、PowerPointの知識や操作を習得する。	2年前期	30	1		○		○				○
○			介護基礎論Ⅰ	尊厳や自立支援という介護福祉の基本となる理念と、介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	1年前期	60	4	○			○				○
○			介護基礎論Ⅱ	自立支援におけるエンパワメントやICFの視点、生活の多様性や社会とのかかわり、介護サービスと特性を理解する。	1年後期	60	4	○			○				○
○			介護基礎論Ⅲ	介護リーダーとしての役割を理解し、リスクマネジメントや他職種との連携協働、地域連携について知識を深める。	2年前期	30	2	○			○				○



○		介護基礎論Ⅳ	介護者と利用者の安全を守るための考え方や方法について理解する。	2年後期	30	2	○		○		○		
○		コミュニケーション技術Ⅰ	介護におけるコミュニケーションの意義や技法を学び、介護場面におけるコミュニケーション能力を養う。	1年前期	30	2	○		○		○		
○		コミュニケーション技術Ⅱ	利用者の特性に応じたコミュニケーション能力を身につけるとともに、チームで働くための能力を養う学習をする。	1年後期	30	1		○	○		○		
○		手話	聴覚障害者の生活やコミュニケーション方法を理解する。	1年後期	30	1		○	○			○	
○		家事支援技術Ⅰ	高齢者や障がい者の実際に応じた食生活を考え、対象となる方に応じた、食事や食形態が提案・提供できるようになる。	1年後期	30	1		○	○			○	
○		家事支援技術Ⅱ	対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する。	2年前期	30	1		○	○			○	
○		家事支援技術Ⅲ	栄養の基礎知識を基に高齢者や障がい者への実践的支援の力を養うおやつ・行事食・郷土食の提供ができる。	2年後期	30	1		○	○			○	
○		日常生活支援技術Ⅰ	本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。	1年前期	60	2		○	○			○	
○		日常生活支援技術Ⅱ	本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。	1年後期	60	2		○	○			○	
○		応急手当と災害時における生活支援	被災していても、個々の潜在能力が発揮できるような個別支援的かわりができるよう、本人主体の生活、根拠に基づいた介護実践に関する知識・技術を習得する。	2年前期	30	1		○	○			○	
○		介護予防学	高齢者一人ひとりの身体機能を活かした介護予防の支援方法を身につける。	2年後期	48	1		○	○			○	
○		レクリエーション理論	介護やレクリエーション実践のために必要な知識や技術を養う。	1年前期	30	2	○		○			○	
○		レクリエーション活動援助法	尊厳の保持の観点から、潜在能力を引き出すためのレクリエーション活動の方法を身につける。	1年通年	60	2		○	○			○	
○		介護過程Ⅰ	アセスメントの視点を理解し、介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた生活課題の分析を行うことができる。	1年前期	30	2	○		○			○	

○		介護過程Ⅱ	介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた介護過程の展開により、根拠に基づく介護実践を考えることができる。	1年後期	30	2	○			○		○					
○		介護過程Ⅲ	他職種との関係性やチームとして介護過程を展開する意義・方法を理解し、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。	2年前期	60	4	○			○		○					
○		介護過程Ⅳ	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。	2年後期	30	2	○			○		○					
○		介護総合演習Ⅰ	介護実習に向けての準備や心構え、実習施設について理解し、他科目での学びと介護実習との関連性が理解できる。	1年前期	30	1			○		○		○				
○		介護総合演習Ⅱ	利用者の状況や施設種別に応じた介護実習に取り組み、介護を学ぶ学生として求められる態度を身につける。	1年後期	30	1			○		○		○				
○		介護総合演習Ⅲ	介護実習において、利用者の自立支援や人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできる。	2年前期	30	1			○		○		○				
○		介護総合演習Ⅳ	介護実習を振り返り、自己の課題を明確にできる。また、介護実習で経験した様々な場面に対応できる能力を養い、専門職としての態度を身につける。	2年後期	30	1			○		○		○				
○		介護実習Ⅰ－①	利用者とのかかわりを通してコミュニケーションの基礎を学び、介護を必要とする方を知る。	1年前期	24					○		○		○		○	○
○		介護実習Ⅰ－②	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活について考える。	1年後期	96	3				○		○		○		○	○
○		介護実習Ⅰ－③	在宅での生活支援を理解し、地域で生活を支える介護福祉士の役割を考える。	1年後期	24					○		○		○		○	○
○		介護実習Ⅰ－④	地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。	2年後期	96	2				○		○		○		○	○
○		介護実習Ⅱ	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活の実現に向けた生活支援について理解し、多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を養う。	2年前期	216	4				○		○		○		○	○
○		発達と老化の理解Ⅰ	高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた、生活を支援するための基礎的な内容を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○					
○		発達と老化の理解Ⅱ	認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響と、本人や家族が地域で自立した生活を継続するために必要な支援について理解する。	1年後期	30	2	○			○		○					

○		認知症の理解 I	認知症の特性に関する基礎的な知識を学ぶとともに、同居する家族への支援と、社会制度や地域福祉について理解する。	1 年 前 期	30	2	○			○										
○		認知症の理解 II	認知症の特性を理解し、認知症高齢者の特徴的な心理、行動に合わせた対応法やアプローチの方法を学ぶ。	1 年 後 期	30	2	○			○										
○		障がいの特性	障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響と、障害に関する医学的・心理的側面を理解する。	2 年 前 期	30	2	○			○										
○		障がいに応じた支援	障害のある人の地域での生活を理解し、本人、家族、地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基本的な知識を習得する。	2 年 後 期	30	1		○		○										
○		こころとからだ I	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○										
○		こころとからだ II	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学ぶ。	1 年 後 期	30	2	○			○										
○		こころとからだのしくみの理解 I	心身の構造や機能について理解し、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。	1 年 前 期	30	2	○			○										
○		こころとからだのしくみの理解 II	心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援する観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉える。	1 年 後 期	30	2	○			○										
○		ターミナルケア	死に直面した人や家族がもつ問題や苦痛を理解し、必要な支援について学ぶ。	2 年 前 期	30	2	○			○										
○		医療的ケア I	介護福祉士が、安全で適切にたんの吸引・経管栄養を行うために必要な基礎を身につける。	2 年 前 期	30	1	○			○										
○		医療的ケア II	安全で適切なたんの吸引の方法・留意点について理解し、たんの吸引の技法を身につける。	2 年 後 期	30	1	○			○										
○		医療的ケア III	安全で適切な経管栄養の方法・留意点について理解し、経管栄養の技法を身につける。	2 年 後 期	30	1	○			○										
合計					51科目				2034単位時間(90単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件は、全科目の単位を履修すること。単位履修方法は、以下の2つの条件を満たすことである。 ①3分の2以上の授業に出席すること ②成績評価60点以上		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。